

■ 燃料の補給

⚠ 警告



燃料の補給はエンジンが冷えていることを確認してください。

燃料の補給やエンジンの手入れをしているときは、絶対にタバコを吸ったり、火気を近づけないようにしてください。補給中に燃料をこぼしたときはウエス等で十分に拭き取ってください。

※ 燃料に引火し、ヤケドや火災等を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注意



ガソリンとオイルをエンジンのタンクに直接入れて混ぜ合わせないでください。

別の容器で十分混ぜ合わせてから給油してください。

※ 十分に混合されない場合があり、エンジンが焼き付く等のおそれがあります。

古い混合油は使用しないでください。

※ 始動不良、出力不良等のおそれがあります。また、キャブレタが詰まる原因になります。

使用燃料は、ガソリンと2サイクル専用オイルの混合油です。
混合する割合（混合比）は下表を参照してください。

混合比	ガソリン	2サイクル専用オイル
50 : 1	50	1 (FC 級以上)

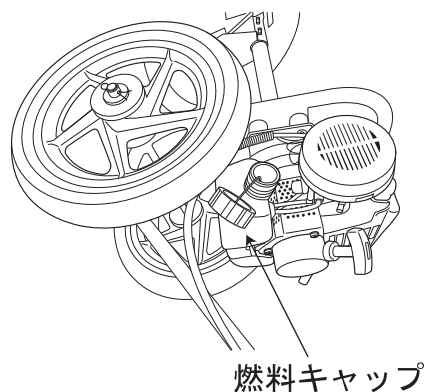
1 給油口が上に向くように本機をたおします。
(MP263)

2 燃料キャップを開けます。

3 混合油を給油口から入れます。

- あふれない程度に入れてください。

4 燃料キャップを閉じます。



4.3 試運転と調整

⚠ 注意



キャブレタの調整はむやみに行わないでください。

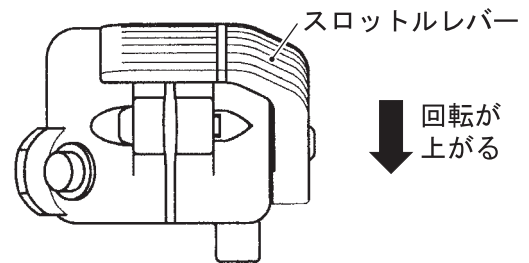
※ 始動・加速不良やエンジンの焼き付き等、故障する原因になります。

1 エンジンを始動します。

2 1～2分程度暖機運転をした後、振動・異音等に注意しながら徐々にスロットルレバーで回転を上げます。

- 特に、刈刃の付近に異常・ガタツキがないか注意してください。

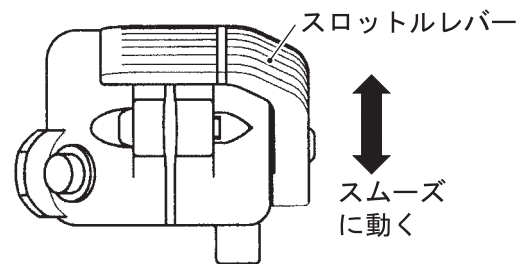
3 スロットルレバーを全閉にし、刈刃が回転しないエンジン回転数まで下がることを確認します。



◆エンジン回転が下がらない場合

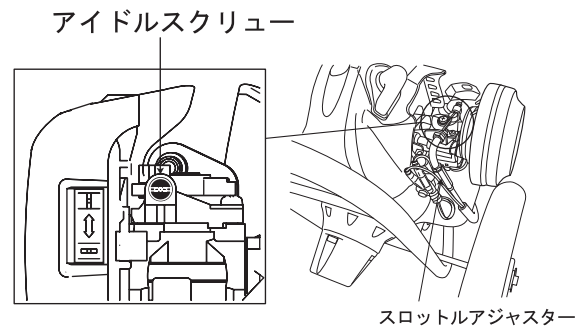
1 スロットルワイヤがキャブレタやスロットルレバーにきちんと差し込まれており、スロットルワイヤがスムーズに動き、キャブレタが全閉まで戻るか確認します。

- 全閉に戻らない場合、スロットルアジャスターを調整してください。



2 上記の調整後、アイドルスクリューで刈刃が回転せずエンジンが止まらず安定する程度に、エンジン回転数を下げます。

- 右に回す …… 回転数が高くなる
- 左に回す …… 回転数が低くなる



5. 移動と作業前準備

5.1 移動するとき

⚠ 注意



自転車やオートバイの荷台に載せて移動しないでください。

※ 機械が落下し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



本機を移動するときは、必ずエンジンを停止してください。

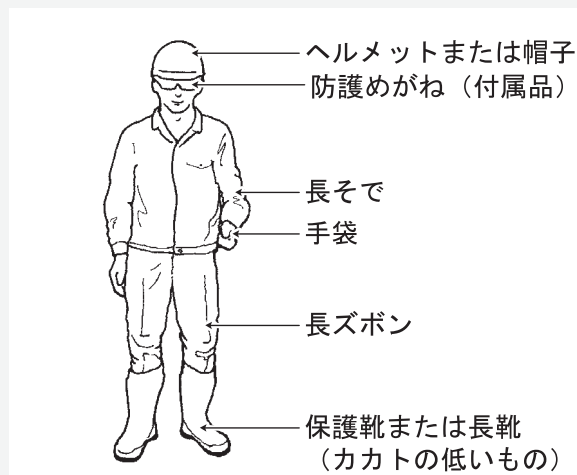
※ 傷害事故を引き起こすおそれがあります。

トラック等の荷台に本機を積み、移動する場合は、動かないようにしっかりと固定してください。

※ トラックから刈払機が落下し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

5.2 作業時の服装

- 服装は、きちんとした活動的なものを着用し、ヘルメットおよび防護メガネまたは顔面防護ネット等を必ず着用してください。
- 保護靴またはこれに準ずる靴を着用し、すね当てを併用してください。
- 丈夫ですべりにくい手袋を着用してください。だぶついた袖口の服装や手ぬぐい等は、木の枝等突起物に引っかかり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 長時間作業のときは、耳栓を必ず装着してください。数人で作業を行う場合、緊密に合図をしようため呼笛を携帯してください。



6. 運転方法

お願い

運転方法の詳細については、別冊「エンジン取扱説明書」をお読みください。

警告

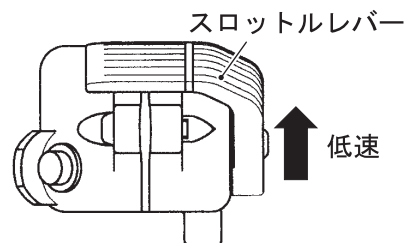


エンジン始動・運転中・停止直後は、しばらくはエンジン本体、マフラ等に触れないでください。

※ ヤケド等、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

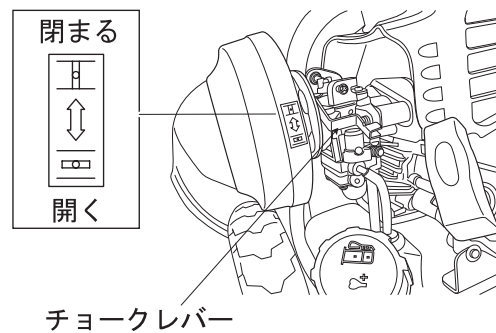
6.1 始動のしかた

- 1 スロットルレバーを「低速」位置にします。



- 2 チョークレバーを全閉位置にします。

- エンジンが暖まっているとき（運転停止後、およそ 15 分まで）は、チョークレバーを全開位置にしてください。



3 プライミングボタンを指で上に当たるまで繰り返し押します。(10回以上)

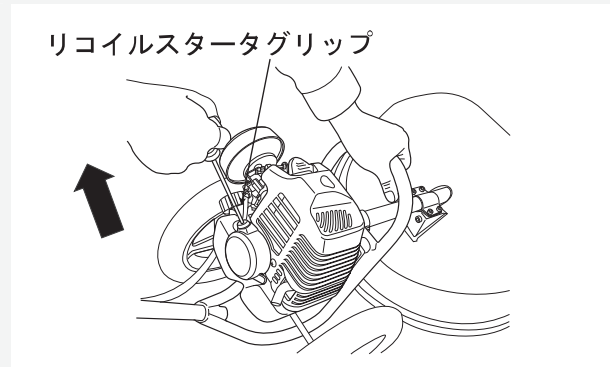
- 少ない操作の場合、始動不良になることがあるので、十分行ってください。
- 🔊) プライミングボタンを押すのは、燃料をくみ上げ、始動を容易にするためです。
- 🔊) くみ上げた余分な燃料はタンクに戻る構造になっています。そのため、プライミング操作を多く行っても吸い込み過ぎ状態になりません。



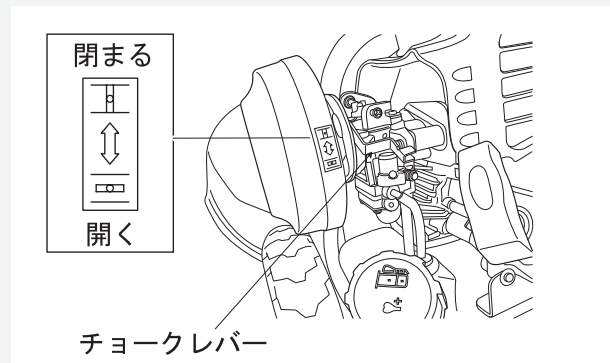
4 本機を押さえ、リコイルスタータグリップを握り、引っ張ります。

次の場合は、チョークレバーを「全開」位置に戻し、リコイル操作をしてください。

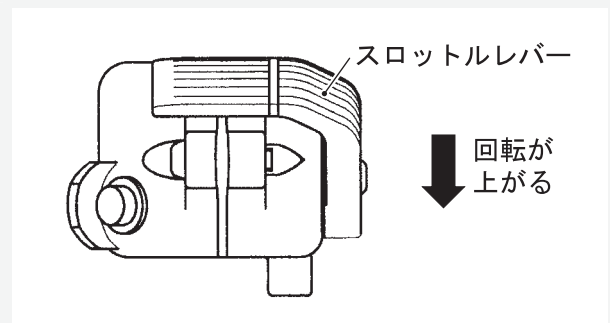
- エンジンが始動したが、途中でストップした場合
- 7~8回までリコイル操作しても、エンジンが始動しない場合



5 エンジンが始動したら、エンジンの調子を見ながら徐々にチョークレバーを全開位置にします。2~3分間暖機運転をします。

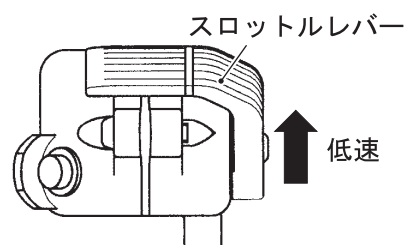


6 エンジンの調子を見ながら、使用したい回転速度にスロットルレバーを動かします。



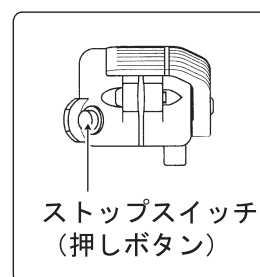
6.2 停止のしかた

- 1 スロットルレバーを「低速」位置にします。



- 2 ストップボタンをエンジンが完全に停止するまで押してください。

🔊) 引き続き後の作業がない場合は、燃料タンクの燃料を抜き取ってください。その後、再始動して気化器内の燃料を使い切ってください。



7. 操作方法

⚠ 危険



刈刃で打つ、たたく等の方法で作業をしないでください。

※ 刈刃の破損や傷害事故を引き起こすおそれがあります。



ハンドルは、両手でしっかり握り、両足に平均に体重がかかるよう適当に開いてご使用ください。

※ 転倒、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 警告



エンジン始動・運転中・停止直後は、しばらくはエンジン本体、マフラ等に触れないでください。

※ ヤケド等、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



キックバックに注意してください。

高速回転している刈刃が、石や樹木、杭、コンクリート等、硬くて切れない固定物に触れた際に、刈刃部がはね返されるキックバックが起こります。

※ 機体が思わぬ動きをするため、正常な操作ができなくなり、傷害事故を引き起こす原因になります。また、刈刃が損傷したり、障害物が砕けたりして破片が飛散するおそれがあります。

⚠ 注意



作業を始めるときは、足場・周囲の状況をよく確認してから、ゆっくり始めてください。

刈刃部に草等が巻き付いて刈刃が停止した場合は、必ずエンジンを停止してください。

回転が止まったことを確認してから草等を取り除いてください。

※ 傷害事故を引き起こすおそれがあります。

ハンドル等をしっかりと握ってください。

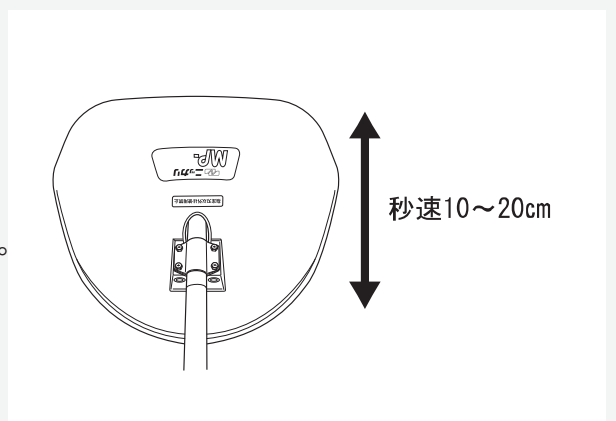
エンジンが回転すると逆方向に力がかかる場合（スラスト）があります。

※ 傷害事故を引き起こすおそれがあります。

草刈作業は、足場のよいところで、正しい姿勢でバランスを取って行ってください。

※ 転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- (1) 機体は前後に押し引きして草を刈ります。
- (2) 早いスピードで刈払機を動かさず秒速 10～20 cm以内の早さで草を刈ります。
- (3) 低速では草を刈れません。8000rpm 以上で使用してください。
- (4) MP263は25cm以上の草は刈らないでください。過負荷により機械が破損するおそれがあります。



8. 作業終了後

警告



各部の締め付けネジのゆるみがないか、刈刃に損傷がないかを点検し、ネジのゆるみがあれば締め付け、刈刃に損傷があった場合はメーカー指定の純正の刈刃と交換してください。

※ 傷害事故を引き起こすおそれがあります。

点検整備・給油等は必ずエンジンを停止してから行ってください。

※ 傷害事故を引き起こすおそれがあります。

部品を交換する場合は、必ずメーカー指定の純正部品をご使用ください。

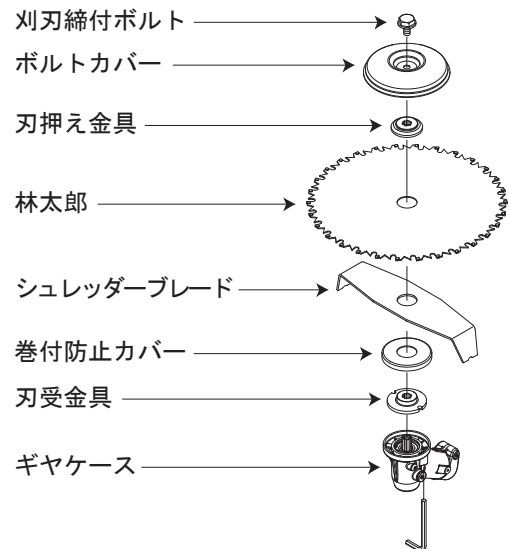
※ 傷害事故を引き起こすおそれがあります。

高温部の清掃をするときは、冷えてから行ってください。

※ ヤケド等、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

MP263

- 1 14ページを参照し林太郎・シュレッダーブレードを外します。
- 2 巻付防止カバー、刃受金具を外します。
- 3 ギヤケースのギヤシャフトの回りのゴミ（土、砂、草片）をきれいに掃除します。（右図 A 部）
ギヤシャフトに草、ナイロンヒモ等が巻き付いている場合もすべて取り除きます。
- 4 清掃後は、元の状態に組付けます。



MP331

- 1 14ページを参照しナイロンカッターを外します。
- 2 巻付防止カバー、刃受金具を外します。
- 3 ギヤケースのギヤシャフトの回りのゴミ（土、砂、草片）をきれいに掃除します。（右図 A 部）
ギヤシャフトに草、ナイロンヒモ等が巻き付いている場合もすべて取り除きます。
- 4 清掃後は、元の状態に組付けます。

